

市民記者のページ



なかきや ひろし
中木屋 宏 さん (下川島)

みなさんが楽しそうに交流する様子を見て、ふれあいの場の大切さを再認識しました。

「二つのふれあい活動が出会う前」
リサイクルは、第1、第3日曜日の月2回、児童館の駐車場で実施されます。そこでは、当番とリサイクル

リサイクルと野菜朝市の コラボレーション 地域内の身近なふれあい活動を紹介します



毎月第3日曜日の朝、川島地区伊讚美児童館は活気にあふれています。それは、伊讚美自治会（堀江久男会長）が行うリサイクル収集日に合わせて、野菜朝市が開催されているからです。「リサイクルと野菜朝市のコラボレーション」は、伊讚美地域サロン「ふれあい会」（田嶋すい代表）による地域の居場所づくりの話し合いから始まりました。

「コラボレーションの始まり」

「ふれあい活動をより充実させるため、伊讚美の特長を生かした新しい催し物を、ふれあい会で何かできないか話し合いました。その中から、地域内の農家の規格外野菜を活用し



地域のみなさんでにぎわう朝市の様子

「朝市とふれあい活動の様子」

初回から好評を博した朝市は、回を重ね8回目を迎えていました。取材日は雨でしたが、児童館に一步入ると、さまざまな旬の野菜が並び、リサイクルに合わせて来た人や朝市を楽しみに来た人、近隣の地域から来た人で賑わっていました。少し離れたところに並べられた椅子には人が集まり、そこは、会話を楽しむふれあいの場となっていました。

「朝市の位置づけと今後の展開」

伊讚美地域では、例年約450人が参加する秋まつりを行ってきまし

たが、現在はコロナ禍により中止となっています。そのような状況の中、ふれあい会は緊急事態宣言の期間を除き、コロナ感染防止対策を取りながら地域のみなさんの協力も得て、朝市という、ふれあいの場を提供してきたこのことです。今後は、世代間の交流を含め、みんなが楽しめる企画をしていきたいそうです。

取材を終えて

さまざまな制約の中でも、地域のみなさんが、協力・工夫しながら行う身近なふれあい活動と、その活動による人とのつながりや支え合いの大切さを感じました。ぜひみなさんも足を運んでみてはいかがでしょうか。



ふれあい会田嶋代表（後列左から3番目）と会員のみなさん